

氏名 槌 田 典 平

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博乙第 2104 号

学 位 授 与 の 日 付 平成 2 年 3 月 28 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 高齢者に対する全人工股関節置換術の治療成績

論 文 審 査 委 員 教授 寺本 滋 教授 折田薫三 教授 村上宅郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

昭和47年より昭和59年までに当科で行なった変股症，大腿骨頭無腐性壊死，外傷例に対して施行された65歳以上の高齢者に対する全人工股関節置換術の術後3年以上経過例62例を予後調査し，その有用性について検討した。死亡14例，不明9例を除く39例，44股について臨床的評価及びX線学的評価を行なった。手術時平均年齢は69.7歳，平均追跡期間は6年9カ月であった。使用器種は Charnley 型21，Müller 型18，New Müller 型5股であった。

重篤な術中，術後早期の合併症は認められなかった。臨床評価では術前平均44.3点から追跡時平均79.2点と改善し成績は良い。X線学的評価では患者の骨粗鬆の程度と人工関節のゆるみとの関連性は認められなかった。Müller 型に成績不良例が多く，ステムのデザインが一因と考えられた。適応を選べば手術後の除痛効果は高く，高齢者でも十分適応があると考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は65才以上の高令者62例に対し，3種類の人工股関節を用いて股関節置換術を施行した後，平均6年9月の追跡によりその効果を臨床的並びにX線学的に検討したものである。その結果，適応を選ぶことにより手術後の除痛効果も高く高令者でも十分適応があることを認めたものであり価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。